

神様の住まうまち

～地域資源「歴史文化」「古民家」「多賀そば」 そして「学生」を活用した地産地消のまちづくり!～

！ここがポイント

「神様の住まうまち」にふさわしい事業を徹底的に展開！

1. 景観整備と魅力ある商業の形成
2. 古民家を活用した創業支援と福祉連携
3. 農業者との連携による交流体験事業とそばを使った商品開発
4. 学生（風）住民（土）による新たな風土づくり

以上の組み合わせにより、相乗効果のまちづくりを進める。



（協）多賀門前町共栄会

【取り組みの背景】

多賀町は人口8,300人、中心部に位置する多賀区では500戸、2,000人の小さな町である。多賀大社の門前町として拓けた市街地は町の中心商店街として栄えてきた。隣接する彦根市郊外に大規模小売店舗の立地が進む中、多賀町の消費者は流出。地元購買率は40%弱となる。また一方では多賀町を訪れる観光客は年間180万人

であるが、季節変動が大きい変動型の商店街という二面性をもっている。

【取り組みの概要・経過】

平成9年

3つの商店街を「門前町共栄会」（77店舗）に統合。

平成10～11年

CI策定、イメージアップ事業、空き店舗活用事業

平成11～12年

中心市街地活性化基本計画策定

平成12～15年

街路灯整備事業・ファサード整備事業（31店舗）

平成13年～

「多賀そば」事業に取り組む

平成15年

滋賀県立大学とまちとの連携

平成17年～

古民家活用事業…門前町デイクアセンターの開設 笑門バザール毎月開催

平成19年

着地型観光事業への本格的取組（交流・体験の実施）

【取り組みの効果】

平成12～15年街路灯整備・ファサード整備事業（平成13年：13店舗・平成14年：14店舗・平成15年：4店舗）を実施。老朽化した商店街は統一コンセプト（業態化を実施）で整備した商店街は来街者も増え、個店の売上も平均1.3倍近く増加。

平成10年から現在まで取り組んでいる古民家（空き店舗含む）活用は創業、テナントミックス、福祉施設への活用を通して農産物等の地域資源との連携、商店街の回遊性向上、地域コミュニティの醸成が図られた。16店舗から現在8店舗に減少した。

平成15年から大学生と住民によるまちづくりスタート、まちづくり気運の醸成、商店街に様々な施設等を製作し、学生の斬新なアイデアによる事業が展開できた。

平成19年から取り組んでいる農業者との連携により、農業者との交流体験・蕎麦の花見体験・収穫体験・新そば打ち体験を実施し、二年目には参加者が1.5倍増加。「多賀そば」のPRが実施でき、特産品開発に意欲を示す事業者が増加。

「笑門には福来り」の意味を含めた「笑門」を商標登録し、絵馬型の玄関飾り、Tシャツ等を作成し商店街各店で販売。商店街のアーチも「笑門」を掲げるなど多賀大社を中心にした街づくりを実施している。特に、毎月開催している「笑門バザール」は各店舗の一品逸品を格安で提供、地

元生活者への評判は高い。

【今後の課題など】

農林業との連携による付加価値の高い商品開発。

未整備の空き店舗の活用。

周辺地域との連携（中心から周辺への着地型観光）。

【（協）多賀門前町共栄会】

所在地：滋賀県多賀町多賀

会員数：57名

店舗数：57店舗

商店街の類型：地域型商店街

URL: 工事中

【この商店街にこの人あり】



「笑門」ブランドの担当者。

（有）エーサイト代表取締役 平居晋

【うちの商店街、ここが自慢】

歴史性文化性を活用し景観づくり



古民家を活用した
喫茶ギャラリー



元禄時代の旅館

地域に支持される商店街未加入 ゼロの商店街!!

！ここがポイント

スタンプ事業を柱にして、環境や子育ての取り組みを展開し、地域への浸透を図る。平成19年には商店街の加入店舗100%を達成。



京都三条会商店街振興組合

【取り組みの背景】

京都市の中心部に近く、800メートルの長いアーケードを持つ地域密着型の商店街であるが、近年、空き店舗の増加や客足の減少に悩まされている。

このような中、スタンプ事業（「リボンスターンプ」）を柱に活性化を推進している。

【取り組みの概要・経過】

商店街では、「環境にやさしい商店街」を目指し、ゴミの減量や資源の有効活用に対する取り組みとして、平成18年、「リボンスターンプ」のポイントと交換して入手できるエコバック「おこしやすSanjo ねこバッグ」を作成した。このバッグデザインが評判となり、一時は在庫がなくなるほど

の人気となった。

環境に関する取り組みとしては、ほかに使用済みてんぷら油回収に参加するとポイントを付与する「エコポイント」の事業も行っている。

また、子育て世代に対しては、商店街の持つ地域のコミュニティとしての機能を活かし、組合事務所のコミュニティホールにおいて、地元の大学と連携して、親子で楽しめる絵本読みや工作などのプログラムを行う「子育て広場」を定期的に開催し、若い母親や子供どうしの出会いの場を提供している。

そのほか、組合への未加入者には断固とした態度で臨み、裁判も行うなどの対応を取った結果、平成19年には商店街振興組合への未加入者がなくなった。

【取り組みの効果】

これらの取り組みの結果、地域の中心商店街として復権するとともに空き店舗が減少し、人通りも増加してきている。

また、京都市内の中心部に近いという立地条件もあり、新たに商店街に参入する若い商店主も増えている。このような若い商店主は、商店街に残る古い京町家の建築を活かしたレストランや産地直売の商品を扱う店など、以前にはなかった形態

の店舗を経営しているため、商店街を訪れる若者も増え、商店街のにぎわいの復活につながってきている。

【今後の課題など】

以前と比較してにぎわいは取り戻しつつあるものの、古くから商売を続けてきた店舗の閉店により「仕舞た屋」が増えつつあるため、これらのテナントとしての活用を含めて対策が必要である。



(三条会子育て広場)



(「おこしやす Sanjo ねこバック」)

【京都三条会商店街振興組合】

所在地：京都府京都市

会員数：175名

店舗数：175店舗

商店街の類型：近隣型商店街

URL: <http://www.eonet.ne.jp/~sanjo/>

【この商店街にこの人あり】



理事長 上田照雄さん

上田理事長のアイデアにより、イベント、売り出しなど、様々な取り組みを展開。

【うちの商店街、ここが自慢】

金メダリストの野口みづきが、雨の日の朝の練習で走った長いアーケードを持つ商店街。

地域子育てステーション「ぱおぱおの家」を開設して 地域コミュニティの構築と商店街の活性化に寄与!!

！ここがポイント

空き店舗を活用して地域子育てステーション『ぱおぱおの家』を開設、若い親同士が気軽に集える場を創出して、地域コミュニティの構築と活性化に寄与。



『ぱおぱおの家』の様子

【取り組みの背景】

近年商店街周辺にも新しいマンションが建ち、若い夫婦も増えてきた。引っ越してきたばかりでは地域との繋がりがうすく、小さな子供を連れて歩くこともままならない。そんな人々の話を聞き、何とかしたいという思いがふくらんだ。子育てに慣れないお父さんやお母さんが孤立すれば、児童虐待など様々な問題に繋がる。そこで商店街が交流の場になって楽しんでもらえたらと、商店街の空き店舗を借り、地域で活動してきた「母乳育児サークル」や「子育て支援ネットあい・あい」と一緒になって子育て支援事業に取り組んだ。

【取り組みの概要・経過】

平成18年に商店街の空き店舗の町屋1階部分を賃借・活用して、地域子育てステーション『ぱおぱおの家』を開設し、0歳から4歳までのお子さんとお母さんを対象にした子育て支援事業に取り組んだ。この『ぱおぱおの家』は、「包み込む」という意味を表すモンゴルの遊牧民居住「パオ」からとっており、“ほっと一息つける実家のような感覚で、小さなお子さんを持つお父さん、お母さんに使っていただき親子が元気になってくれる”ことを願って名づけた。

この施設の運営にあたっては、伏見区内で育児サークルを運営している「子育て支援ネットあい・あい」や「母乳育児サークル」などの協力を得て、週2回（月・木）「親子ひろば」を開催し、絵本の読み聞かせや育児アドバイス等をする他、離乳食などの料理教室等を実施して若いお母さん方の子育て等に対する不安の解消や核家族化が進む中でのコミュニティの構築を目指した。

平成18年3月末の登録者数は221組であったが、平成20年11月末には430組が「ぱおぱおの家」に登録している。

【取り組みの効果】

当初想定していたより多くのお母さん方に登録をしていただき、多い日には30組の親子が参加するなど大変好評で1階のスペースだけでは収容が困難なこともあり、平成19年に京都府・京都市の補助金を活用して2階部分を改修して大手筋文化センター『コスモス』として整備、子育てステーションの収容スペースを拡充すると共に、2階部分の一部を京都文教大学のサテライトキャンパスとして同大の心理臨床センターが悩みの相談室を開いたり、子育て情報の提供や交流事業を行うなど本施設が地域コミュニティの核となることができ、商店街の賑わいの創出と地域コミュニティの構築・強化に繋がった。

【今後の課題など】

現在は、月曜日と木曜日が「親子ひろば」、水曜日が「母乳育児サークル(対象が1歳ぐらいまで)」、月1回「いどばた会議(障害児・病児をもつ親の会)」を開催している。もっと多くのお母さん方に利用していただくには地域団体の協力とボランティアスタッフの育成が必要で、平成18年度より月2回程度(5日間)独自で講座を開催して、スタッフの養成に取り組んでいる。

また、土・日曜日は殆ど使われていないため、文化発信・賑わいを創出するイベントに使うことができないか、現在模索中である。

【伏見大手筋商店街振興組合】

所在地：京都府京都市

会員数：117名

店舗数：117店舗

商店街の類型：近隣型商店街

URL: www.otesuji.or.jp

【この商店街にこの人あり】



【理事：和田登美子】

平成4年11月に商店街の女性部組織として『あてらの会』を立ち上げ、地域コミュニティの構築と商店街の活性化に取り組んでおり、『ぱおぱおの家』は当理事の発案で、家業の方でもマクロビオティックな料理教室や圧力鍋の料理教室を開いて“簡単で、美味しく、健康的な食づくり”を推進している。

【うちの商店街、ここが自慢】

京都府・京都市の補助金を活用して空き店舗を改修し、平成16年に文化センター『ひまわり』として健康麻将店(賭けない、吸わない、徹夜しない)を、平成19年には文化センター『コスモス』として“ぱおぱおの家”と京都文教大学のサテライトキャンパスを開設し、小さな子供からお年寄りまでが安心して集え・憩いのできる場を提供している。

老朽化した長屋の再生をとおして、 まちの魅力を再発見!!

！ここがポイント

大阪市の中心部に残る古い長屋や町家の再生をとおし、地域住民の「まちに対する誇り」を喚起し、まちを活性化。



（長屋を再生した商業施設「惣」）からほり倶楽部

【取り組みの背景】

空堀商店街界隈は、大阪市内の中央部に位置する、古代から続く歴史ある地区である。ここには東西に長い商店街があり、その周辺には戦災を免れて残った古い長屋や町家が、高低差のある地形や石畳、狭い路地などと相まって、どこか懐かしく趣のあるまちなみを形成している。

しかし、古い家屋は現代の生活には不便な面も多く、また防災の点などからもその良さがなかなか認識されなかった。このため、こういった古き良きまちなみが失われる方向にあった。

このような流れの中で、老朽化した長屋や町家の魅力を引き出して再生させることをとおして、地域の住民が自分たちのまちの魅力を認識し、まちを活性化させるために、空堀地区でのまちづくりが始まった。

【取り組みの概要・経過】

空堀地区での長屋再生の取り組みは、平成13年、有志によって「空堀商店街界隈長屋再生プロジェクト」として発足した（略称として「からほり倶楽部」）。

住居の改修を初めとして、老朽化した長屋を商業施設や文化施設として再生させる取り組みは、平成14年から始まり、現在までに3軒の施設がオープンしている。それぞれ「惣（そう）」、「練（れん）」、「萌（ほう）」と名付けられ、飲食やサービス、雑貨等の物販のチャレンジショップ等さまざまな店舗が展開されている。これらは木造家屋のリノベーションの成功事例としてマスコミ等に多く取り上げられ、「空堀」の名は広く知られるようになった。

平成17年には、「萌」にこの近辺で生まれ育った直木三十五にちなんで、「直木三十五記念館」を開設し、地域の知られざる歴史に住民が親しむ機会を提供している。

また、長屋の改修や活用方法等についてのアドバイスや、売主（貸主）と買主（借主）の橋渡しを「長屋すとおくばんくねっとわーく企業組合」として取り組んでいる。

ソフト面では、平成13年のプロジェクト発足当初から始まった「からほりまちアート」がある。

これはアーティストたちが街中に作品を展示するものだが、現在まで毎年1回開催され、多くの来街者を惹きつけている。空堀にある3つの商店街組織も、このイベントの際にインフォメーションを設置するなど協力している。

最近では、古い住宅地であるこの地区に根強く残っている地域コミュニティの存在は、災害等の有事の際には“減災”に資する機能を発揮することに着目し、減災についての勉強会も行っている。

また、大阪市では、空堀地区を市の「HOPEゾーン事業」の実施地区のひとつとし、地域で修景基準を定め、それに基づいた新築・改築に対して補助を行っている。

【取り組みの効果】

今まで地域の住民から評価されていなかった古い長屋を、魅力ある施設に再生し、それが内外から評価されるとともに「空堀」がブランドとなり、遠方からの来街者が多く訪れるようになったことで、住民ひとりひとりが自らの住むまちが本来持っている魅力を認識し誇りを持つようになったことが大きな成果である。

当初は地域に受け入れられることが難しかったまちづくりの取り組みだが、来街者の増加をもたらしたことで、商店街の活性化につながった。また、「惣」にあるレンタルボックスに地域の高齢者が出品するなど、住民にも受け入れられてきている。

また、「長屋に住みたい」「長屋で商売をやりたい」という希望を持って空堀にやってくる他地域の人も増えており、地域住民や商業者にとって良い刺激となっている。

【今後の課題など】

今後も継続してまちづくりを行うため、次の世代を担う人材を育てることが課題。

【からほり倶楽部】

所在地：大阪府大阪市

会員数：140名

(店舗数：誘致、設計等を手がけた店舗は約40店舗)

URL:<http://www.eonet.ne.jp/~karahori-club/>



(「練」の内部)

【この商店街にこの人あり】



六波羅雅一さん

- ・からほり倶楽部代表理事
- ・六波羅真建築研究室 代表

長屋再生のプロフェッショナル。空堀地区のまちづくりのパイオニアであり、その活動の中心を担う。

【うちの商店街、ここが自慢】

“人”が自慢。「からほり倶楽部」のメンバーは、それぞれ違ったフィールドや個性を持っており、それらがまちづくりに多様性をもたらしている。

大阪の賑わい創造の主役として、 大阪の文化・楽しさ・夢を売る商店街!!

！ここがポイント

「道具屋筋ならではの」特徴を活かし、商売を通じた観光・文化・教育に役立つ商店街として、地域の活性化、賑わいづくりに寄与。



千日前道具屋筋商店街振興組合

【取り組みの背景】

「天下の台所」「くだおれ」のまち大阪を古くから支えてきた千日前道具屋筋商店街は、食器、調理器具、食品サンプル、看板やのれんなど、飲食店向けの商材を扱う専門店が多く並び、見て回るだけでも楽しい商店街。大阪を、商店街をもっと多くの人に知ってもらうため、更なる観光客誘

致や次世代育成を目指し、様々な取組みに係る基本的な全ての作業を商店街のスタッフが協力し合い行っている。

【取り組みの概要・経過】

平成13年から、修学旅行生を対象とした『大阪の商い体験』プログラムを実施している。これは各種の体験学習を通じて、大阪の「笑い」「食」「商い」という3つの文化を学べるものである。

◆「笑い」

プロの落語家や芸人から上方落語と江戸落語の違いや鳴り物や扇子の使い方などを勉強し、実際に舞台上がり落語や漫才を実演する“芸人体験”を通じてコミュニケーションの大切さを学ぶ。

◆「食」

有名なコナモンの名店において、たこ焼き、お好み焼き、うどんなど大阪粉文化について聴講した後、昼食はプロの指導のもと、各自で焼いて賞味する“食文化体験”を行う。

◆「商い」

“商店街講座”や“あきんど・丁稚体験”、“実演販売体験”、“食品サンプルなどの手作り体験”など、様々な体験学習を通じて大阪商人魂を学ぶ。

また、年に二度開催する「道具屋筋ベンチャーウィーク」では、飲食店経営を夢見る個人企業家

の育成のため、行政とともに開業・経営・資金・転業など様々な相談に対応したり、講習会を実施して専門家の知識と道具屋筋のノウハウを提供している。

【取り組みの効果】

これらの取り組みを通して、商店街の賑わい創出や知名度・信用向上、連帯感強化が図られているほか、大阪の知名度の向上にも寄与している。



（商店街のようす）



（『大阪の商い体験』）

【千日前道具屋筋商店街振興組合】

所在地：大阪府大阪市

会員数：47名

店舗数：47店舗

商店街の類型：広域・観光型商店街

URL: <http://www.doguyasuji.or.jp/>

【この商店街にこの人あり】



理事長 千田忠司さん

大阪市中央区南商店会連合会 会長

大阪府商店街振興組合連合会 副理事長

大阪府厨房料飲機器家具協同組合

副理事長

【うちの商店街、ここが自慢】

飲食店などで用いる本格的な業務用の調理器具や厨房設備、什器や看板などを扱う店が集まっており、プロの料理人から観光客まで楽しめる商店街。

地元密着！ 地域住民とともに歩む商店街！！

！ここがポイント

地元複数の大学と連携し、商店街を舞台に幼稚園児や小学生が活躍する場を創出したり、高齢者向け宅配事業を行うなど、地域住民に愛される必要不可欠な商店街を目指す。

——スマイル瓢箪山——



(サンロード瓢箪山)



(ジンジャモール瓢箪山)

【取り組みの背景】

スマイル瓢箪山は、近鉄瓢箪山駅を中心とした3つの商店街（瓢箪山中央商店街＜サンロード瓢

箪山＞、イナリ前商店街＜ジンジャモール瓢箪山＞、瓢箪山駅前東商店会）と1つの小売市場（マイン）からなる連合体である。

東に生駒山、西に第二寝屋川という立地条件にも恵まれ、市内でも有数の商業集積が形成されていた。しかし、駅乗降客数の減少や大阪外環状線沿線の商業施設の進展などから、厳しい経営状況にあった。

平成10年度以降、東大阪市や大阪府の事業として商店街活性化に取り組んだことを機に、地元密着した「地域型商店街」として、さまざまな活動を行っている。

【取り組みの概要・経過】

スマイル瓢箪山では、地域住民の視点から、ハード・ソフト両面から様々な取り組みを実施している。

◆スマイル宅配便事業

平成14年度から、地域の特性である“高齢者”を対象に、商店街で購入した商品を自宅まで配達するサービスを実施。商店街内の米屋や酒屋などと契約したアイデアによる安価な宅配サービスを展開。

◆「ひょうたんから逸品」事業

自薦・他薦により掘り起こした各個店の「逸品」

の工夫を凝らした紹介に加え、地名でもある“瓢箪山”の紹介など、地域住民に親しまれる逸品リーフレットを作成して配布している。

◆大学との連携事業

「ひょうたん瓦版」という紙媒体による情報発信事業を実施。子どもから高齢者にいたるまで、地域住民に親しみをもってこれを読んでもらうため、近隣4小学校及び1幼稚園にひょうたんの栽培を依頼してその成長過程を掲載したり、また、大学生が取材した地域情報を特集している。

また、大学生の企画による、小学生の職業体験“瓢箪山探検隊”や“瓢箪山ちびっこみこし”なども実施している。

◆ひょうたん栽培事業

商店街が中心となり、ひょうたんを栽培し各個店にひょうたんを飾っている。また、地域住民も作品の発表会・展示会に参加し、地域がひょうたんあふれる街づくり事業に取り組んでいる。

◆ひょうたんモニュメント

サンロード瓢箪山は日本で最初に国道にアーケードを設置した商店街であるが、地域に親しまれる商環境づくりのため、青く光るLEDを使った巨大ひょうたんをそのアーケードの入口アーチに、また纏（まとい）型のモニュメントを駅前せせらぎ広場に設置するなど、秀吉の千成瓢箪にちなみ、大小あわせて1,000個のひょうたんモニュメントを設置し、新しいシンボルを創出している。

【取り組みの効果】

大学生のサポートも受け、地域の小学生や幼稚園児をはじめ地域一体となった様々な取り組みにより、商業者同士や地域住民とのコミュニケーションが活発に図られるようになり、地域に密着した商店街づくりができた。

【スマイル瓢箪山】

所在地：大阪府東大阪市

会員数：179名

店舗数：240店舗

（サンロード瓢箪山、ジンジャモール瓢箪山、瓢箪山駅前東商店会、マイン）

商店街の類型：近隣型商店街

URL: <http://www.hyotanyama.net/>

【この商店街にこの人あり】



実行委員長 岡本定雄さん

瓢箪山中央商店街振興組合 理事長

大阪府商店街振興組合連合会 理事

東大阪市商店会連合会 常任理事

河内太鼓台保存会 参与

お祭りや消防団・防犯活動も世話人として地域との連携を積極的に行っている。

【うちの商店街、ここが自慢】

地域住民のため、絶えず何かに挑戦・取り組んでいる商店街。

「大人が3時間楽しめる街」を 目指したまちづくり!!

！ここがポイント

震災による壊滅的被害から、商業者みずからによる地域資源の掘り起こしにより、まちの魅力を発見・創造・発信してまちを活性化。



(大正筋商店街) 新長田地区商店街

【取り組みの背景】

JR新長田駅周辺は、「履き倒れの街・神戸」にあってケミカルシューズ産業で栄えてきた地域である。商業面では、駅の南側を中心に、いくつもの商店街が集まって商業集積を形成している。

ここは、平成7年の阪神・淡路大震災で多くの商店や住宅が倒壊、また大規模な火災の発生などにより壊滅的な被害を受け、大規模な区画整理、再開発を余儀なくされた地域である。

このため、震災後は再開発ビルの建設などハード事業が進捗していたものの、地元の商業者は商店街のソフト面に対し危機感を持ち、商業再生・活性化のための取り組みを始めた。平成20年、この地域の中心市街地活性化基本計画が認定された。

【取り組みの概要・経過】

以前は、いくつもの商店街が隣り合わせながらも各々で活動していたが、震災からの復興に取り組む中、この地域一帯の回遊性を高めるため、複数の商店街などが連合して（株）神戸ながたTMOを組織し、まちづくりに取り組んできた。

活動のひとつに、「震災の街」から「食の街」へ」がある。これは当初、震災の被害を学ぶ目的で街を訪れていた修学旅行生への“おみやげ”のため、「ぼっかけ」（牛すじとこんにゃくを甘辛く煮込んだ長田発祥といわれる料理）をカレーやコロッケなどとあわせて商品化したことなどである。今では大手食品メーカーやコンビニエンスストア等とコラボレーションするなど全国的に有名になっている。

他には、「アジア」をテーマとした飲食店等を商店街の空き店舗を利用してチャレンジショップとして集積したり、個々の店舗の魅力を発掘するため一店逸品運動も開始するなど、実に多様な事業を行っている。

また、平成21年夏には、高さ18メートルの「鉄人28号」のオブジェが商店街の北側に隣接した公園内に完成する予定である。これは、この地域が漫画「鉄人28号」「三国志」などの作者である横山光輝氏の出身地であることにちなんだ事業

「KOBЕ鉄人PROJECT」の一環である。

ちなみに、これはアニメキャラクターのモニュメントとしては世界一の大きさを誇る。

そのほか「三国志」にちなんだ事業としては、近い将来完成に向けて計画されている「(仮称)三国志ミュージアム」の建設に向け、各商店街のアーケードのバナーにかかる三国志登場人物のイラスト掲示や、三国志武将の等身大となる石像の設置、関連イベントの開催など、地域を盛り上げていこうと企画している。

このように発掘、創造された地域資源を活かし、現在は30歳以上の世代を主なターゲットとして「大人が3時間楽しめるまち」をテーマにまちづくりを進めており、近隣の大学生とタイアップし、地域内を一定のテーマで3時間かけて巡るコースの検討などが行われている。

【取り組みの効果】

「10人いれば、やりたいことは10通りある。それを全て実現する。」ことをモットーとして、多種多様なことに取り組んできた結果、今までなかなか気づかれなかった地域のポテンシャルを、商業者、住民が自ら発掘し、地域資源として活用している。

【今後の課題など】

震災を経て、製造業のまちから住宅地へと変貌している町の状況に、商店街がどのように対応していくのが課題。地域外からの来街者を呼び込みつつ、「住みたくなるまち」をつくることにより、結果として商圏内人口を増やすことが必要である。

【新長田地区商店街】

所在地：兵庫県神戸市

店舗数：9商店街等274店舗

(新長田1番街商店街振興組合、大正筋商店街振興組合、六間道商店街振興組合、六間道商店街友和会、新長田本町筋商店街連合会、西神戸センター街親交会、丸五市場事業協同組合、腕塚食材商業協同組合、久二塚商業協同組合)

商店街の類型：近隣型商店街

URL:

※神戸ながたティ・エム・オー

<http://www.kobe-nagata-tmo.com/>

【うちの商店街、ここが自慢】

- ・世界一お好み焼きなど“コナモン”の店が集積。
- ・世界一巨大なアニメキャラクターオブジェ「鉄人28号」がこの夏完成。



(こなもん祭り)

地元の特産品である「かばん」を アイテムとした商店街活性化!!

！ここがポイント

商店街を「カバンストリート」と位置づけ、ギャラリー「カバンステーション」を拠点にかばん産地豊岡の情報発信を行っている。



宵田商店街「カバンストリート」

【取り組みの背景】

宵田商店街は、かつては多くの商店でにぎわっていた商店街であるが、近年、モータリゼーションの進展や近郊の大型小売店との競合などにより、活気がなくなっていた。

このような中で、現在、豊岡の特産品である「かばん」に着目しての取り組みが行われている。

この取り組みは、有数のかばん産地でありながら、全国的にはあまり知名度のない「かばん産地豊岡」を商店街がPRすることにより、観光客を商店街に誘導し、活性化へつなげたいという思いから始まった。

【取り組みの概要・経過】

地元の鞆産業と協力し、平成17年、商店街を「カバンストリート」として位置づけた。アーケードに「カバンストリート」の看板を設置するなど、積極的にPRしている。

同年、ギャラリー「カバンステーション」を商店街振興組合の運営でオープンした。これは、商店街の若手が中心となって検討を重ねたものである。このギャラリーを情報発信元として、かばんのPRが行われている。

ここでは、誕生日別の365種類のトートバック（「365バースデートート」）、近郊に城崎温泉があることにちなんで旅行雑誌とコラボレートして製作した「湯めぐりバッグ」といったユニークなオリジナル商品の販売も行っている。また、かばんの展覧会などのイベントも行われている。

また、商店街の既存の商店の一角を利用して、その商店の取り扱っている商品や雰囲気にマッチしたかばんを展示し、販売も行っている。

そのほか、自動販売機でオリジナルのかばんを販売するなど、他に例を見ない活動も行っている。

【取り組みの効果】

かばんの自動販売機などがメディア等にたびたび取り上げられたため、近隣の観光地へ来た観光客がカバンストリートへも訪れるようになっており、「かばん産地豊岡」のPRと、観光客の商店街への誘導が効果としてあらわれている。

【今後の課題など】

「かばん産地豊岡」としてのさらなる情報発信と取り扱うかばん商品の充実や、商店街のハード及びソフト面の拡充をしていかなければならない。



(これがカバンの自動販売機！)

【宵田商店街】

所在地：兵庫県豊岡市

会員数：40名

店舗数：23店舗

商店街の類型：近隣型商店街

URL:

※商店街

<http://www2.nkansai.ne.jp/shop/yoida/index.htm>

※カバンストリート

<http://www.cabanst.com/>

【この商店街にこの人あり】



理事長 兼先正雄さん

宵田商店街理事長としてカバンストリートの宣伝に努めるほか、兵庫県の大型観光交流キャンペーンを通じて、まち全体を博物館にみたとて特産の鞆をPRする「まちごとカバンミュージアム実行委員会」の委員長としても活躍している。

【うちの商店街、ここが自慢】

めずらしいかばんの自動販売機や、かばんの匠の工房がある。工房は見学することもできる。

商業インキュベータ施設などの拠点整備等により、 まちのにぎわいに寄与!!

！ここがポイント

商業インキュベータ施設の開設や、大型空き店舗を活用したスーパーの誘致により、商店街の通行量が3割増加。



(クリスマスイルミネーション)
奈良もちいどのセンター街協同組合

【取り組みの背景】

奈良もちいどのセンター街は、創業100年を超える商店も多い歴史の長い商店街である。しかし、以前商店街近くにあった市役所の移転などのため、1970年代末から客足が遠のきはじめ、平成

12年頃から空き店舗が目立ちはじめた。

このような状況から、商業インキュベータ施設の開設を行うなど、まちの活性化に向けた事業に取り組んでいる。

【取り組みの概要・経過】

商店街が、廃業したパチンコ店舗跡地を買い上げ、若い起業家のための商業インキュベータ施設「もちいどの夢CUBE」に再生、平成19年にオープンした。現在、この施設には新規開業者の経営するミニ店舗が10店舗集積しており、個性ある店がまちのにぎわいをもたらしている。

また、平成20年に奈良市中心市街地活性化基本計画が国に認定されたことを受け、商店街の大型空き店舗を活用して、それまで地元で不足していた食品系スーパーを誘致し、「フレッシュマートオーケスト」として開店した。この店舗前の広場ではさまざまなイベントを開催している。

また、地元の奈良女子大学との連携により、商店街や市民を招いた出張講義を開くほか、企画イベントなどを実施している。

他の商店街と連携した取り組みとしては、毎年近隣の奈良国立博物館で開催され多くの人出でにぎわう「正倉院展」にあわせて、「奈良もちいどのセンター街」を含む近鉄奈良駅近辺の8商店街等

が協力し、平成17年からスタンプラリーを実施して地域を盛り上げている。

【取り組みの効果】

平成18年以降、「もちいどの夢CUBE」のオープンを経て、平成20年の通行量は3割増となった。また、徐々に新規出店が増え、一時は10店舗近くあった空き店舗も減少した。

また、それらの新規出店と以前からの商店がうまく解け合って商店街の活性化、地域のにぎわいに寄与している。

【今後の課題など】

老朽化した集合店舗が残る店舗が移転し全体に空きビルになったので、その新築計画に期待するとともに商店街も協力したい。



（「夢CUBE」オープニングイベント）



（フレッシュマートオーケスト）

【奈良もちいどのセンター街協同組合】

所在地：奈良県奈良市

会員数：45名

店舗数：85店舗

商店街の種類：地域型商店街

URL:

<http://www1.kcn.ne.jp/~mochiido/>

※ブログ

<http://naviblo.navvita.jp/mochiido.php>

【この商店街にこの人あり】

松森理事長

- ・ 中心市街地活性化協議会委員
- ・ メールマガジン等での情報発信、問題提起
- ・ 中心市街地の8つの商店街の集まりである中心市街地活性化研究会の専務理事として、中心市街地における商店街全体の取り組みをはかっている。

魚谷専務理事

- ・ 商店街の若手後継者
- ・ バサウ祭り
- ・ 正倉院展に合わせたイベントの企画
- ・ 「校倉な会」リーダーとして、正倉院展に合わせ、有志で商店街にちなんだ商品づくり。

【うちの商店街、ここが自慢】

- ・ 商店街の中に春日大社の大宿所があり、また理源大師や弁財天が祀られており、このような歴史に基づいたイベントを継続している。
- ・ 24時間テレビ「愛は地球を救う」の中継基地を20数年来継続している。

「年中夢中！てんりストリート」 でまちづくり!!

！ここがポイント

地元大学とタイアップして商店街のにぎわい拠点を開設するなど、若い力を取り入れて活性化を目指す。



天理本通商店街

【取り組みの背景】

天理市は、天理教教会本部がある宗教都市であり、多くの天理教信者が来訪する。

市の中心部に位置する天理本通商店街は、ＪＲ及び近鉄の天理駅を起点として、奈良県下最長の約１ｋｍの長さを持つ商店街であり、川原城アーケード商店街と三島アーケード商店街の二つの団体から構成されている。店舗数は飲食店、土産物店、洋品店など約１９０店舗を数える。

また、商店街周辺には天理教本部や大学があり、近隣には山の辺の道や石上神宮といった史跡もあるため、天理教の月次祭（毎月２６日）を中心に天理教信者や観光客の来街は多く、空き店舗も全

店舗数の数％以下にとどまっている。

しかしながら、近年、近郊への大型小売店出店の影響などによる地域住民の来街の減少や商店主の高齢化、後継者不足などにより、従来と比較すると空き店舗数も増加傾向にあるため、商店街は活性化に向けた取り組みを始めた。

【取り組みの概要・経過】

平成１８年から、市商工会が中心となり、地元大学、商店街、商工連盟、行政などと連携して「中心商業活性化実行委員会」を立ち上げ、商店街活性化に向けた検討を始めている。

その活動のひとつに、平成２０年に商店街内の空き店舗を活用したにぎわいづくりの拠点「てんだりーｃolors」の開設がある。ここは地元大学の学生を中心に運営されており、学生が野菜や果物を販売する青空市や寄席、大学のサークル活動の発表会などのイベントや一般も聴講できる大学のサテライト講義が行われている。

また、商店街マップの作成や商店街内への休憩スペースの設置、大学の学園祭と連携したイベント開催なども行っている。

現在は、平成２１年３月のイベント「年中夢中！てんりストリート」の実施に向け、検討を重ねている。このイベントは今後定期的な開催を目指し

ており、来街者が楽しみながらまちを回遊するための様々なイベントが計画されている。

【取り組みの効果】

「中心商業活性化実行委員会」は、商店街と地元大学が初めて連携した取り組みである。学生が商店街に入り込み店主らと意見交換を行うことで、商店街に新たな雰囲気が作られつつある。

【今後の課題など】

「てんだりーcolors」のさらなる活用のため、地元大学の留学生による一般向け語学教室の開催といった新しい事業を検討し、実施していくことが課題。

また、来街者に学生や高齢者が多いため、これらの特徴を捉えた事業の構築が必要である。



(学生による青空市)

【天理本通商店街】

所在地：奈良県天理市

会員数：187名

店舗数：187店舗

(川原城アーケード街、三島アーケード街)

商店街の類型：門前町型商店街



(「てんだりーcolors」オープン)



(「てんだりーcolors」での意見交換)

【うちの商店街、ここが自慢】

・奈良県下で最も長いアーケードを持つ商店街。

「安全で安心な街、歴史と伝統のある商店街」を 地域住民や若い経営者に残すため、 商店街が連携して取り組む!!

！ここがポイント

今年のテーマを「個店、商店街のファンづくりと、商いは心から」として、商店街が連携して活動。



ヤーヤー祭りの風景（銀座商店街）



大道芸の演出（宮路通り商店街）

【取り組みの背景】

和歌山県田辺市は、古くは平安の中頃より熊野三山への参詣の要衝として栄え、今日に至るまで紀南地域の政治、経済、交通、文化の中心地として、さらに商店街地域はその中核的な役割を担ってきた。

しかし、近年になり、昭和45年頃より大規模小売店舗や専門店が郊外に出店し始めると、中心市街

地への集客が減少し店舗の売上げの低下と空き店舗の増加が年々深刻さを増す厳しい状況となってきた。

日増しに危機感が募るなか、平成4年頃より行政・商工会議所・商店街関係者等が一体となって、市街地を東西に走る都市計画道路の整備と沿線の街なみ景観の整備に取り組み、平成7年に始まった銀座・アオイ・海蔵寺地区の「沿道区画整理型街路事業」は平成21年に完了する予定である。

さらに、平成20年には田辺商工会議所に田辺市中心市街地活性化協議会が設立され、まちの活性化に向けた取り組みを進めている。

【取り組みの概要・経過】

田辺市商店街振興組合連合会の基本理念を「中心地に人々を呼び戻そう」と定め、今年のテーマを「個店、商店街のファンづくりと、商いは心から」として、歴史と伝統ある商店街を地域住民や若い経営者に残すべく、同連合会が軸になりながら各商店街と共に取り組みを進めている。

◆フリーマーケット「びっくり箱」

商連青年部によりオープンした、空き店舗を活用したレンタルスペース型フリーマーケット。ここでは一般の方が持ち寄った品々が展示販売されている。

◆ヤーヤー祭りによる賑わいづくり

昭和46年から実施されている夏の夜の祭りで、8月に商店街地域全体を歩行者天国にして、各商店街が趣向を凝らしたイベントを行っている。

◆教育助成券付きイルカカード事業

ポイントカードによる販売促進事業であるが、平成18年からは教育振興の目的とカードの利用促進を図るため、10円の「教育助成券」を追加した。

◆アオイ通り商店街の土曜日

平成12年に改修されて広くなった歩道を利用して、定期的に朝市が開かれている。

【取り組みの効果】

フリーマーケット「びっくり箱」には年間1万2千人～1万8千人が来店し、またヤーヤー祭りは約4万人の人出があるなど、商店街の集客力は向上している。

また、教育助成券付きイルカカード事業は、子供達の教育教材等の購入に育友会・学校が活用し、地域と一体となった取り組みとなっている。

アオイ通り商店街の土曜市は、地域の生鮮產品などが好評で、農村地域と連携したコミュニティの場となっている。

【今後の課題など】

安全・安心なマチ、コミュニティが形成されたマチ、高齢者や子育てに優しいマチを推進し、「魅力ある商店街」を目指す。

また、平成21年10月に予定されている第13回全国商店街サミット田辺大会の開催では、大会テーマを「商店街の務め（役割）」として、全国の商店街関係者から多くの参加者を募り、将来に向けた商店街のあり方を共に探る。全国の商店街の方々と商店街の課題と取り組みを共有すると共に、田辺市のPRにつなげることが課題。

【田辺市商店街振興組合連合会】

所在地：和歌山県田辺市

会員数：10商店街328商店

（駅前商店街振興組合、北新町商店街、栄町商店街、銀座通商店街、湊本通り商店街、宮路通り商店街、駅前新通商店街、弁慶町商店街、海蔵寺商店会、アオイ通り協同組合）
商店街の類型：地域型商店街

URL:

※商店街

<http://www.aikis.or.jp/~shouren/>

※イルカカード

<http://www.irukacard.com/>



【うちの商店街、ここが自慢】

商店街振興組合が軸となり、市内商店街が連携して活性化に向けた取り組みを行っている。



（イルカカード）

住民との協働による湯浅町のまちづくり ～身の丈にあった手作りのまちづくり戦略～

！ここがポイント

湯浅のまちづくりは、小さい一つひとつの事業を各関係者・住民と連携協力しながら、着実に真面目に進めてきました。「計画や提言づくり」要は「口だけ」から決別し、「行動すること」「着実に事業を進めること」に地道に必死で取り組んでいる。



シロウオ祭りの風景

【取り組みの背景】

平成9年頃から自主的なまちづくりの在り方が検討されていた。平成12年度には旧法に基づく湯浅町中心市街地活性化基本計画が策定され、中心市街地活性化法に則ったまちづくりが本格化する。

平成13年度には湯浅町商工会が TMO 構想を作成、平成14年3月、町から TMO としての認定を受けた。TMO 構想は個性的な地域作り、商業中核拠点作り、賑わいと懐かしさが溢れる施設と仕掛け作り、回遊性のある地域作り、癒しのまちづくりを方針として掲げ、人材・財源の制約がある中、実現可能な事業から地道に積み上げる、

身の丈に合った展開を図ることになった。

【取り組みの概要・経過】

町内道町南商店街の熊野古道、北町・中町・鍛冶町では、醤油・味噌の製造に関わる古い町並みを活かし、商店街・自治会と熊野古道研究会・町並み研究会・和歌山大学等が連携し、国や町の補助を活用しながら建物や立石のような道標の保全・補改修・修景等、町並み景観整備に努めている。平成18年10月には、北町・中町・鍛冶町の町並みが重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けた。

また、町内外の有志の発案と積極的な参画・協力を得て、湯浅祭り、湯浅の鯖ッと鰯まつり、シロウオ祭り等が、町民ボランティア等の協力を得つつ開催されている。地域ブランド形成、イオン・グループとの連携による販路開拓・知名度向上等にも役立っている。

伝統的なシロウオ漁の復活、町内案内地図設置、回遊ルート・マップ作成、語り部育成等の取り組みも活発に行われている。加えて、アクセス性や回遊性を促進するため、JR 湯浅駅前駐車場の無人化と運営を行ったり、レンタサイクル事業に取

り組んだりしている。

【取り組みの効果】

身の丈にあった活動の結果、新聞社やメディアの取材、他県からの視察なども多く受け入れるようになった。湯浅町を訪れる観光客も以前は26万人だったが、平成19年には36万人までになった。また、平成18年12月には、念願の「重要伝統的建造物保存地区」の指定を受け、さらに町全体が盛り上がりつつある。

【今後の課題など】

平成18年度からの第2次アクションプラン事業に着手している。今後とも「身の丈にあった手づくりのまちづくり」を基本方針として、行政、商業者、住民等の各関係者と協働体制の下、数々のまちづくり活性化事業を実施していく。

しかし、観光入り込み客を相手に事業を始め収益を上げるまでに育て上げるという段階に進むためには多くの問題点が存在している。

中心市街地では今もなお商店の閉店が相次ぎ、老朽化した店舗等が取り壊されるものもあり、未だ多くの課題が残されている。



古い町並みを活かした「お休み処」の整備



熊野古道へ続く「道南町商店街」の風景

【湯浅町商工会（湯浅町TMO）】

所在地：和歌山県湯浅町

会員数：207名

店舗数：207店舗

商店街の類型：近隣型商店街

URL:

http://www2.w-shokokai.or.jp/yuasa/tmo/index_tmo.html

話題性を活かした多彩な活動による 商店街の活性化!!

！ここがポイント

「市民参加で、人の集まる商店街を！」を合言葉に、さまざまな活動を展開。



小浜駅通り商店街（はまかぜ通り商店街）

【取り組みの背景】

小浜駅通り商店街（通称「はまかぜ通り商店街」）は、かつては活況を呈した商店街であるが、近年は郊外の大型小売店との競合等により、商店街を歩く人も減り、空き店舗も増えている状況である。

このような中で、商店街はいろいろな活動を実施しているが、平成20年は、日本でも注目を集めたアメリカ大統領選挙の候補者であった「オバマ氏」と発音が同じという縁で、有志により立ち上がった「オバマ候補を勝手に応援する会」（現在は「オバマを勝手に応援する会」に名称変更）や、小浜を舞台としたNHK連続ドラマ「ちりとてちん」の人気を活かし、活性化に取り組んでいる。

【取り組みの概要・経過】

平成18年、旅館を改装して商店街の活動拠点となる多目的空間「はまかぜプラザ」がオープン。この「はまかぜプラザ」では、当初から定期的にアマチュアバンドの演奏会「はまかぜライブ」を実施しているほか、組合員や一般に対して会場の貸し出しも行っている。

また平成19年には、社会福祉協議会や医療専門学校との学生などと協力し、福祉によるまちづくりイベント「やさしさいっぱい! まちなか夢通り」を開催した。

平成20年には、NHK連続テレビ小説「ちりとてちん」の効果で観光客が増えているのを受け、期間限定でみやげ物屋「若狭屋」を開設した。この店舗は商店街内の空き店舗を活用したもので、ドラマに関連した若狭塗り箸や、ドラマのロゴ入りの和菓子といったドラマ関連のグッズや、「オバマ候補を勝手に応援する会」の特製Tシャツなども販売した。

また、平成20年からは、「はまかぜプラザ」で落語の寄席を定期的で開催するなど、商店街のにぎわいづくりに取り組んでいる。

【取り組みの効果】

観光客がみやげ物を購入できるスペースがないという要望にこたえて「若狭屋」を開設するなど、商店街自らが観光客の受け入れ体制を整え、また誘致するための取り組みを進めており、その結果、多くの観光客が商店街を訪れるようになった。

【今後の課題など】

「ちりとてちん」や「オバマ候補を勝手に応援する会」による話題性を活かし、今後も継続した観光客の誘致を図るため、定期的な寄席の開催や関連グッズの販売などで、「行って良かった。」と思ってもらえるように、他の団体と連携して地域ぐるみで商店街の活性化に取り組む必要がある。



(学生との連携イベント 伝統工芸のまちなか eco 活動)



(はまかぜライブ)

【小浜駅通り商店街

(通称はまかぜ通り商店街)】

所在地：福井県小浜市

会員数：86名

店舗数：100店舗

商店街の類型：地域型商店街

URL:<http://www.hamakaze-st.net/>

【この商店街にこの人あり】



木下 弘明さん

(小浜駅通り商店街振興組合理事長)

小浜市の玄関口の商店街を市民からも、観光客からも満足していただけるように、さまざまなイベントを開催し、注目を集めている。

【うちの商店街、ここが自慢】

「ちりとてちん」、「オバマ候補を勝手に応援する会」により、まちの活性化の気運が高まっている。

4つの商店街の連携による まちなかの活性化!!

！ここがポイント

中心市街地の4つの商店街が「まちなか商店街」を組織し、一体となって商店街の活性化に取り組む。



（きの市でにぎわう様子）越前市まちなか商店街

【取り組みの背景】

越前市は、JR武生駅を中心とするまちである。武生駅周辺の中心市街地は、かつては丹南地域の商業の中心地として栄えたが、現在は大型小売店との競合等により商店街を取り巻く環境が変化し、来街者数が減少するなど厳しい状況にある。

平成19年、越前市が中心市街地活性化基本計画の認定を受けたことから、中心市街地の中にある古い土蔵が立ち並ぶ「蔵の辻」周辺の4つの商店街は、これを再生のラストチャンスととらえ「まちなか商店街」を組織し、県の「商店街元気再生計画」の認定を受けて活性化に取り組んでいる。

【取り組みの概要・経過】

「蔵の辻」では、地元商店主や地域住民で構成される実行委員会の主催により、「昭和浪漫」をテーマとして骨董市やフリーマーケット、またライブなどが行われる「きの市」が毎月定期的に開催され、にぎわいを見せている。

「まちなか商店街」は「きの市」と連携し、スタンプラリーや空き店舗を利用した無料休憩所の設置、地域の歴史や文化を紹介する「まちなかサロン」の開設など、「きの市」への来街者が商店街を回遊するための事業を実施している。

また、平成20年に商工会議所、武生商店街連盟が「蔵の辻」近くにオープンした「まちなかプラザ」の運営に協力もしている。「まちなかプラザ」は空き店舗を活用したもので、観光客に対する情報発信や食品・工芸品の物産販売、無料休憩所などの機能を持っている。

他にも商店街の後継者を育成するための商人塾を開催し、商店街をリードする新たな集団の組織化に取り組んでいる。

【取り組みの効果】

4つの商店街が連携しての「まちなか商店街」の取り組みから1年が経過した現在、徐々にでは

あるが集客力が高まってきている。

【今後の課題など】

「菰の市」と「まちなか商店街」の連携をさらに高めるとともに、来街者を商店街に回遊させるための仕掛けづくりをさらに強化する必要がある。

また、商店街の周辺の神社仏閣や大正、昭和初期の趣きを残す町家を活かしたにぎわいづくりを進める必要がある。



(スタンブラリー)



(「まちなかプラザ」)

【越前市まちなか商店街】

所在地：福井県越前市

(中央広小路商店街振興組合、蓬莱本町商店街振興組合、総社通り商店街振興組合、善光寺通り商店街振興組合)

会員数：141名

店舗数：131店舗

商店街の類型：地域型商店街

【この商店街にこの人あり】



三谷 勇二さん

(「越前市まちなか商店街」を構成する蓬莱本町商店街振興組合理事長)

越前市中心部商店街を再び元気の商店街にしたいとの強い思いから、商店街の連携、若手の人材育成、賑わい創出事業など数々の事業の仕掛人として活躍中。

【うちの商店街、ここが自慢】

- ・ 商店街の歴史も古く、土蔵や町屋といった古い建物がそのまま店舗になっているなど、老舗が多い。
- ・ 商店街の周辺には、神社・仏閣が多く、明治、大正、昭和の初期に建築された建物も多数残っているなど、歴史的資源に恵まれている。